

**課題**  
issue

アパレル業界から食品ロス問題の解決に立ち向かうブランド「FOOD TEXTILE」の効果的なPR方法を検討せよ

創業180年のライフスタイル商社・豊島のプロジェクトであるFOOD TEXTILEは、廃棄食材を食品関連企業などから買い取り、それらを染料にして染め上げた商品を展開しています。食品ロスの削減に貢献し、よりよい環境を創造するFOOD TEXTILEを効果的にPRする方法を検討します。

**解決策**  
solution

人から人へ未来につなげるオーダーメイドギフト

課題解決の方向性【考え方】

課題であるFOOD TEXTILEのPR方法を考えることに留まらず、ファッション業界の大量生産・大量消費・大量廃棄といった根本的な問題を同時に解決するオーダーメイドギフトを提案します。



現在のアパレル業界の負の循環を解決するために、FOOD TEXTILEをオーダーメイドギフトという形で提案する。エンシカルな商品は値段が高いため、ある程度高くても買ってもらえるギフトに着目した。買った人が継続して購入するようにポイントカードを同封する。ギフトならではの温かみを感じられるように、イニシャル刺繍や、贈り手に対してのメッセージカードをサービスとする。

食品ロスの削減、ファッション業界に対する問題認識により、ファストファッションをよく利用する若者の消費行動の転換が期待される。最終的なゴールとして、アパレル業界の問題を正の循環に変えることができる。

持続可能な  
社会への  
ポイント

- ① 受注生産型であるオーダーメイドギフトにしたことにより、PRに止まらずファッション業界の負の循環を変える解決策となる。
- ② オーダーメイドギフトギフトにより、若者の消費行動を変えることができる。
- ③ FOOD TEXTILEが浸透すれば、食品ロスに貢献できる。
- ④ 特に、伝統文化であるあずま袋を現代的に生まれ変わらせたAZUMABAGをギフトにすることにより、伝統を継承することができる。

12 つくる責任  
つかう責任



研究員  
メッセージ  
message

私達は今回の活動を通して豊島さんと意見を交わすことで、ファッション業界の問題について詳しく学ぶことが出来ました。それによって、頂いた課題に応えるのみでなく、ファッション業界全体の課題を解決したいと考えるようになりました。「オーダーメイドギフト」を通して人から人への繋がりや温かみを感じてもらいたいです。

チーム・豊島

金城学院大学 3年 加藤 瑠夏 椋山女学園大学 3年 池田 雪乃  
愛知学院大学 2年 松村 美咲 南山大学 1年 平田 くるみ  
愛知県立大学 1年 皿井 楓

ファシリテーター

NPO法人アスクネット 顧問 白上 昌子